



赤星 美奈子さん

Akahoshi Minako

〔中横田区〕

あかほし・みなこ / 読み聞かせボランティア。町生涯学習センター図書室で、第2・4日曜日午前10時30分から開催する「読み聞かせ会」で活動

絵本の読み聞かせで広がる 子どもたちの豊かな想像力

「子どもたちに読んでほしい絵本を尋ねると、心がほんわかとなる絵本を選んで持ってくるので、見ていて面白いですね」と笑みがこぼれるのは、読み聞かせボランティアとして活動する赤星美奈子さん。

幼児から小学生低学年を対象として、町生涯学習センター図書室で開催する「読み聞かせ会」。読み聞かせのほか、手遊びや折り紙遊びなどでの触れ合いを通して、子どもたちの豊かな心を育てる活動に取り組む。

ボランティアを始めてから、「絵本の世界から広がる、子どもたちの想像力はすごい」と感じた赤星さん。絵本に描かれた単なる丸い図形が「子どもたちの目を通すと、読み進めるうちにボールやシャボン玉、動物などいろいろなものに変化していく」発想の柔らかさと楽しさに接して、「読み聞かせというよりも、子どもたちに上手に読ま

せてもらっているという感じですね」と顔がほころぶ。

会に参加して、最初は「ドキドキだった」と振り返る赤星さん。しかし、絵本を挟んで向かい合う「子どもたちの、真剣で身を乗り出して話に夢中になっている表情」に魅せられるとともに、「子どもたちの喜ぶ笑顔を見て、会に連れて来られた保護者の皆さんと一緒にうれしそうな顔をされると、この活動をして良かった」とほほ笑む。

読み聞かせは、「ただ読む、というだけのものではないと思う」と考える赤星さん。「例えば、たくさんある本の中から、『私これが読みたい。 अच्छががいい』と、本選びを子どもたちが考えることで、自分の意志や行動、自主性も出てくる」と観察。また、絵本を通しての「保護者との会話で、心の成長をうながすのでは」と、読み聞かせによってはぐくまれる親子のきずなの大切さも指摘する。将来は、「自宅に近所の子どもたちが遊びに来てくれて、一緒に本を読めたらというのが夢。日常生活の中で触れ合えたら、一番幸せ」と希望が膨らむ。